

一房のぶどう



第9号

平成 19年 3月 1日

編集・発行 / あきる野市教育委員会 〒197-0814 あきる野市二宮 350 ☎042(558)1111(代)

家庭への 3つの 呼びかけ

食卓で心を温めよう

食事をしながら子どもの話しに家族で耳を傾け、共感し、受け止めるだんらんのを大切にしましょう。

会話する力をつけよう

子どもの会話する力は、言葉のキャッチボールから育ちます。親は子どもの話しかけをしっかり受け止めましょう。

子どもを家事に参加させよう

子どもが家事に興味を示したら、家庭教育の絶好のチャンス！温かい気持ちで教えてあげましょう。



特別支援教育報告会には、制度の本格実施を目前に他県からの参加も（7ページ関連記事）



いじめ緊急対策連絡会を開催。市内小中学校長、副校長らが、いじめ撲滅三原則「するを許さず」「されるを責めず」「いじめに第三者なし」の徹底を確認



修復を終え、彩色も鮮やかに往時の姿に蘇った大悲願寺観音堂（市指定有形文化財）



平成19年成人式
約900人の新成人が大人の仲間入り（少年少女合唱団リトルエコーズが歌で祝福）

平成18年度・あきる野市教育推進スローガン 人が育ち 人が輝く あきる野の教育

「いじめ相談ほっとライン」で相談しよう！

あきる野市では、あなたや、あなたの友達が困っていることを、一時もはやく解決するために「いじめ相談ほっとライン」を開設しています。ひとりで悩まずに、いじめかどうかわからなくてもかまいません、とりあえず電話してみてください。かならず解決へのヒントが見つかるはずです。

教育相談所042(558)6444(秋川)・042(596)6460(五日市)

適応指導教室042(550)6527・子ども家庭支援センター042(550)3313

メール相談：hot-line@akiruno.ed.jp（電話相談は、平日午前9時～午後5時、メールは24時間受付）

平成19年度 あきる野市教育委員会の教育目標

平成19年度のあきる野市教育目標及び基本方針が決まりました。この目標を達成するための重点項目には、特に、「学校の安心・安全対策の徹底」、「いじめ不登校の撲滅」、「基礎的・基本的学力の定着と向上」及び「食に関する指導」などの取組を明確に示しました。平成19年度は、これらの方針に基づき各施策に積極的に取り組んでいきます。

教育目標

あきる野市教育委員会は、人権尊重と社会貢献の精神を基調とし、あきる野市民憲章に則してすべての市民が豊かな自然や文化・伝統に誇りをもち、生涯を通じて学ぶことのできる生涯学習社会の実現を図る。その中で、家庭、学校、地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚し緊密な連携のもとに、子どもたちが心身ともに健康で、豊かな人間性と未来をひらく学力を兼ね備えた市民として成長し、「人と緑の新創造都市」あきる野市の発展に貢献することを期して、教育を推進する。

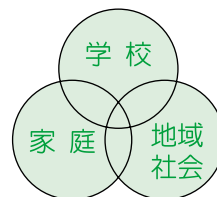
平成19年度あきる野市教育委員会教育目標（図）

人と緑の新創造都市・あきる野市

教育

「人が育ち 人が輝く あきる野の教育」
豊かな人間性 未来をひらく学力

生涯学習社会



自然

人権尊重・社会貢献

伝統・文化

あきる野市民憲章

基本方針

1 人権尊重と社会貢献の精神をはぐくむ教育の推進

すべての市民が、自他の人権について理解を深め、責任を自覚し、協力し合い、安心して社会生活を送れるよう、人権尊重と社会貢献の精神を育成する教育を推進する。

2 豊かな人間性と未来をひらく学力をはぐくむ教育の推進

子どもたちが、国際社会に生き社会の変化に主体的に対応していくために、基礎的な学力の向上を図り、個性と創造性を伸ばす教育を推進する。

3 生涯学習の推進と文化、スポーツ・レクリエーションの振興

すべての市民が生涯を通じて自ら学び、文化やスポーツ・レクリエーションに親しめるよう、基盤整備と社会参加による学習・交流活動を推進する。

4 家庭、学校、地域社会の連携・協力の強化

子どもたちが、乳幼児期から、豊かな体験を通して健やかに成長できるよう、家庭教育や地域活動を支援するとともに、家庭、学校、地域社会が一体となった「安心・安全な教育環境づくり」を推進する。

重点項目

1 人権尊重と社会貢献の精神をはぐくむ教育の推進

- (1) 人権尊重の理念を市民に定着させ、偏見や差別のない社会をつくるために人権教育を推進する。
- (2) 子どもたちが、社会生活の基本的なルールを身に付け、「思いやり」や「助け合い」、「敬意」の心をはぐくむために、体験を重視した心の教育を推進する。
- (3) 子どもたちが、地域社会の一員としての自覚をもち、一人一人が役割を果たして、広く社会に貢献しようとする心を育てる教育を推進する。

2 豊かな人間性と未来をひらく学力をはぐくむ教育の推進

- (1) 基礎的・基本的な学力の定着及び向上を図り、子どもの自ら学び、自ら考える力を伸ばすために、個に応じた多様な教育を推進する。
- (2) 「食」に関する指導や家庭における基本的な生活習慣の形成、家庭学習の習慣化を図る。
- (3) 特別な支援を必要としている子どもが、個々の教育的ニーズに応じた指導を受けられるよう特別支援教育を推進する。
- (4) わが国や世界の文化・伝統に触れる機会を多様にし、郷土を愛する心と誇りをはぐくむとともに、多様な文化に対する理解を深める教育を推進する。
- (5) 教員の資質・能力の向上を図るための研修を一層充実する。
- (6) 子どもや保護者の願いを実現できるよう、学校施設・設備の整備を進め、特色ある学校づくりと学校運営の改善・充実を図る。

3 生涯学習の推進と文化、スポーツ・レクリエーションの振興

- (1) 生涯学習推進計画に基づき、体系的な事業展開と推進体制の整備を進め、「いつでも、どこでも、だれでもが学ぶことのできる」生涯学習の振興を図る。
- (2) 学習活動や交流の場の充実と学習情報の収集・提供を進め、団体と人材の育成を図り、市民参加の促進と協働による生涯学習活動を支援する。
- (3) 市内に伝わる有形・無形の文化遺産の保護につとめ、文化財の公開・活用を推進し、郷土学習の機会を提供する。
- (4) スポーツ施設の整備や指導者及び団体の育成と、スポーツ・レクリエーションに関する情報の提供を行い、市民スポーツの振興を図る。
- (5) 生涯学習関連施設の整備と充実を図り、既存施設の有効活用と適正利用を進め、利用しやすい施設づくりを推進する。

4 家庭、学校、地域社会の連携・協力の強化

- (1) 家庭、学校、地域社会、関係機関の連携のもとに、次代を担う子どもたちを育成する。
- (2) 学校、家庭、地域社会が連携して『いじめ・不登校0（ゼロ）への挑戦』を推進する。
- (3) 『学校の安心・安全対策』の徹底を図り、子どもたちが安心して安全に生活できる学校や地域の環境づくりを進める。
- (4) 家庭教育や地域活動に関する情報や学習・交流の機会を提供する。
- (5) 子どもたちの体験を重視した学校外活動・余暇活動の機会を充実する。
- (6) 家庭・地域社会と連携した教育を目指し、保護者や地域住民の参画を求め、開かれた学校づくりを推進する。

家庭は教育の原点です⑧

家庭の役割を見直してみましよう。

平成16年から発行の広報教育あきる野「一房のぶどう」第2号から7回にわたって「家庭は教育の原点です」という観点から、家庭へのメッセージをシリーズで掲載してきました。「子どもとの信頼関係」「家事への参加」「あいさつ」「読書の薦め」「会話する力」「生活リズム」「テレビの見方」といったテーマで、家庭が子どもの成長に果たす大切さや、役割の見直しを呼びかけてきました。

シリーズの最終回の今回は、家庭教育の原点ともいえる「家庭でのだんらん」を取り上げました。

食卓で心を温めよう！

「あのね、今日ね、ちやんがこうやってね、そうしたらね…」

家族で夕ごはんを食べているとき、子どもはその日あった出来事を一生懸命に話し始めました。

子どもは、楽しかったこと、感動したこと、いやな

思いをしたことやちよつとつらかったことなどを、家族に聞いてもらいたいと願っているのです。自分の

思いを家族に受け止めてもらえたときに、心が休まるという経験は、誰もがもっているのではないのでしょうか。

子どものたわいもない話に家族が耳を傾け、「そうなんだ、よかったね。」と共感をし、受け止めるこ

とができる関係は、家庭教育の基盤と言えるものです。

親の仕事などの関係で、毎日は無理でも、週に1回でも2回でも、家族がそろって食卓を囲む一家だんらんのひと時がもてるよう工夫しましょう。

そのときに、次のようなことに注意することが大切です。

- テレビを見ながら、新聞を読みながら、携帯電話を使いながらは禁物です。互いに目を見て会話できるようにしましょう。
- しかったり、子どもの話しを否定したりすることはやめましょう。
- 「そうなんだ」「すごい

ね」と話を受け止めて、「それからどうなったの」と話を発展させましょう。

人は、遠慮なく甘えられようという関係の中で、悩みなどさまざまなことを話し、ストレスを発散させることで、心がやすらぎ、明日への活力が湧いてくるのです。特に子どもは、このことを無意識のうちに家族に求めているのです。

指導・学務課

☎558・8859

8回のシリーズで掲載してきた「家庭は教育の原点です」の各内容は、市のホームページの、「一房のぶどう」のバックナンバーでご覧になれます。

<http://www.city.akiruno.tokyo.jp/>

教育委員会の活動(会議)

- 5月定例会
 - (議案)あきる野市図書館協議会委員の任命について
 - (議題)小・中一貫教育について
- 6月定例会
 - (議案)あきる野市学校給食センター運営協議会委員の委嘱について
 - (議題)小規模学校対策事務局プロジェクトチーム設置等について
- 7月定例会
 - (議案)平成19年度使用教科用図書(心身障害学級教科書)の採択について
 - (議題)子どもの放課後対策について
- 8月定例会
 - (議案)平成18年度あきる野市教育委員会所管予算(第1号補正)について
 - (議題)あきる野市教員研修センター構想について
- 9月定例会
 - (議案)あきる野市有形文化財(考古資料・建造物)の指定にかかる諮問について
 - (議題)2学期制学校経営を検証する。
- 第2回臨時会
 - (議案)教育委員会所管予算(第一号補正)について

「家庭の日」 推進事業 最優秀作品

絵画・幼児の部

よつぎ第一保育園 5才
岡村 あすみ
「家族で山に
いったところ」



市では家族のコミュニケーションを密にし、親子の絆を深めるとともに明るく家庭づくりを努めていきたいという願いを込めて、毎月第2日曜日を「家庭の日」として設定しています。今年度は、「親子観劇会」「絵画・作文コンクール」を推進事業として実施しました。親子観劇会には1133人が参加し、絵画・作文コンクールには幼児から中学生まで合計783人の応募がありました。この中から絵画・作文コンクールの最優秀賞受賞作品をご紹介します。

作文・小学生

高学年の部

「父と自由研究」

小宮小学校 5年

佐藤 拓磨

夏休み、自由研究で困っていたら、
「うちの会社にする。」
と、父が言いました。

「ええ。」
と、ぼくは、いやがりました。
それは、知らない人がいるからです。でも、父が、

「休みだからだれもいないよ。」
と、言ってくれたので、父の会社に見学に行くと、コンクリートのでき方の研究にしようということになりました。

父の会社は、コンクリート会社です。実際行ってみると、会社は閉まっています。でも、父は力ギを持っていたので入れました。だれもいなかったのので、貸し切りのようでした。

ポスター・中学生の部

西中学校 2年
中道 ふみ



コンクリートを作っているところを見せてもらいました。材料がわからないので、
「これ何、「これは。」
と、何回も指をさして聞くと、
「それは、セメント。」
「それは、混和剤という薬だよ。」

と、やさしく教えてくれました。何だか、特別という感じがして、とてもうれしかったです。ぼくは、二年前にも父の会社に来たことがあるので、
「久しぶりだな。」
と、言ったら、
「そうだった。」

と、父が言いました。父から見ると、ぼくは、早く大きくなっているように感じているのかなと思えました。

コンクリートは、セメント・砂利・混和剤を全部入れてから水を少しずつ入れていって、いい具合になったら完成です。それを、父が実験室で実際にやって見せてくれました。いつも家に行くと元気いっぱいな父ですが、この時は、真剣にぼくに教えてくれました。でも、やさしいところは、変わりませんでした。父が会社に来て仕事をしているときの様子が少しわかったような気がしました。父の顔を見ると、とてもまじめで、真剣な顔をしています。家にいる時のリラックスしてい

た。でも、父は力ギを持っていたので入れました。だれもいなかったのので、貸し切りのようでした。

父の会社は、コンクリート会社です。実際行ってみると、会社は閉まっています。でも、父は力ギを持っていたので入れました。だれもいなかったのので、貸し切りのようでした。

父の会社は、コンクリート会社です。実際行ってみると、会社は閉まっています。でも、父は力ギを持っていたので入れました。だれもいなかったのので、貸し切りのようでした。

父の会社は、コンクリート会社です。実際行ってみると、会社は閉まっています。でも、父は力ギを持っていたので入れました。だれもいなかったのので、貸し切りのようでした。

父の会社は、コンクリート会社です。実際行ってみると、会社は閉まっています。でも、父は力ギを持っていたので入れました。だれもいなかったのので、貸し切りのようでした。

父の会社は、コンクリート会社です。実際行ってみると、会社は閉まっています。でも、父は力ギを持っていたので入れました。だれもいなかったのので、貸し切りのようでした。

父の会社は、コンクリート会社です。実際行ってみると、会社は閉まっています。でも、父は力ギを持っていたので入れました。だれもいなかったのので、貸し切りのようでした。

父の会社は、コンクリート会社です。実際行ってみると、会社は閉まっています。でも、父は力ギを持っていたので入れました。だれもいなかったのので、貸し切りのようでした。

- 10月定例会
- (議題)行政(教育)財産の用途変更及び引継ぎについて
- (議題)いじめ撲滅への取組と今後の課題について
- 11月定例会
- (議題)危機的状況のわが国の教育を考え、あきる野市の教育充実・発展のための課題を明確にする
- 12月定例会
- (議案)平成19年度あきる野市教育委員会教育目標及びあきる野市教育委員会の基本方針について外2件
- (議題)あきる野市健康づくり21に係る教育委員会としての取組について
- 1月定例会
- (議題)伝統・文化をどう学ばせるか

る顔とは大ちがいでした。父は、会社では、いつもこんな顔で仕事をしているんだなあと思いました。
父のように、ぼくもすぐ気持ちを切りかえるところを、見習いたいなあと思いました。自由研究は、父のおかげで五ページの本にまとめることができ、ぼくとしては、よくできたなと思いました。
父と会社にいた一時間は、ぼくにとっても大切な時間でした。

あきる野市教育の日

「あきる野市教育の日」にちなみ、「第11回未来を築く青少年健全育成あきる野市大会」が開催されました。午前の部では、青少年善行表彰式、午後の部では、小学生児童6人による人権メッセージの発表が行われ、引き続き行われた中学生の主張大会では、「学校・家庭・地域や友人等のかかわりの中で、日ごろ考えていること」をテーマとした作品を、中学生の応募者1231人の中から選ばれた16人が発表しました。

この中から最優秀賞を受賞した作品をご紹介します。

第11回あきる野市

中学生の主張大会

「お年寄りの気持ち」

増戸中学校二年

宮野 恵利

みなさんは「核家族化」というのを耳にしたことがありますか。核家族とは、両親と子供だけの家庭のことをいい現在では

それが80%近くを占めています。私はこの夏「核家族化」というのを改めて考えさせられました。

私たちは学校の体験学習で、ある老人施設を訪れました。クラスグループ6人で駅から30分くらい歩いて行きました。辺りは薄暗い山道になってきて、こんな山の中に施設があるということに驚きました。施設に着いて中に入り、あいさつをして、ラジオ体操や集会に参加しました。集会が終わるといよいよお年寄りの方々のいる部屋へと向かいました。事前の打ち合わせで2人ずつに分かれて世話をすることになっていました。私は一人の男子と組んで「お年寄りの役に立てるといいね。」と話しながら交流できることを楽しみにしていました。しかし病室の廊下を歩いているとお風呂に入る準備をしている人がいたりして「こういう人達をどうやって接したらよいのかわからなくて少し不安になりました。そして名前も覚えなくては失礼だと思ったので、思った以上に大変だ」という気持ちがわいてきました。

お年寄りの方とは年代も違うので話が合うか、変なことを話して嫌な気持ちにさせないかも思ったりしました。あいさつをしに各部屋へ行くとお年寄りの方々は皆、私たちを笑顔で迎えてくれました。一番初めに一人のおじいさんの所に近づいた時、おじいさんは目が不自由なものにもかかわらず、私に手を差し出してきました。最初は「えっ。」と戸惑いましたが、そのおじいさんの話し相手になりました。そのおじいさんの机を見るとお孫さんからもらった絵や手紙がたくさん飾られていました。それを見ると施設に入る前は、お孫さんたちと楽しく暮らしていたのではないかなと思えました。それがわかった時、私はたまらなくなってしまうおじいさんの手を握り返しました。すると、おじいさんは声が出せないのに、舌の動きで「ありがとう。」と言ってくれたことがわかりました。そして涙を流しながら手を合わせてくれました。私はそのおじいさんの涙に感謝の気持ちが伝わってきて決して忘れることのないものとなりました。少しだけ自分が優しくなれたような気がしました。

そのおじいさんと別れ、違う部屋に行くと一人のおばあさんが私に、「話がしたいねえ。」と言って話しかけてきてくれました。



た。そのおばあさんは自分の祖母に似ていたので心があたたかくなったような気がしました。私が、おばあさんにこの施設のことや生活のことなどの質問をするとおばあさんは丁寧に答えてくれました。「ここにいる人は家に一人できると危ないからここに入れられた人が多いんだよ。」と教えてくれました。そのおばあさんは私が見た限り元気そうだったので一人でまだまだ生活できそうだと思います。でも一人で生活をしていると突然なにかがあった時に助けを求めることが出来ません。だから安全のためにお年寄りが施設に入れられてしまうことも仕方がないのかなと思いました。おばあさんは施設の様子や生活など色々な話をしてくれました。「私の手なんてこんなにシワシワ。あなたの手と交換してほしいくらいだよ。」そんな風におばあさんに言われて、最初は驚きました。しかし、おば

あさんの遠くを見つめるような表情や肩を丸くして話すしぐさに、「淋しい。」と口にはできない「淋しさ」が表れているように思いました。

きつと老人施設には、こんな気持ちを抱えているお年寄りが他にもたくさんいると思います。職員の方や家族の人が関わってあげたらよいと思うのですが、きつと忙しいと思うし、もし自分がその立場だったとしても、四六時中お年寄りの側について世話をすることは、無理だと思えます。

しかし、お年寄りの方々は今の日本を支えてきたのです。今、両親がいるのは、祖父と祖母がいる、つまりお年寄りがいたわけだから自分がいるのです。

もっとお年寄りの方を大事に尊重し、敬っていくべきなのではないのでしょうか。私の家は核家族なので、お年寄りの気持ちや生活が、ほとんど理解出来ません。これからは、出来るだけ時間を作ってボランティアや地域活動に参加して、お年寄りと多く接する機会を持つとうと思えます。

この夏、私は、お年寄りとの貴重な体験をし、いろいろなことを学びました。今回の体験学習は自分がひとまわり大きくなれたような気がします。

特別支援教育推進情報 - その9 -

特別支援教育体制・副籍モデル事業（3年次）

平成19年4月1日から、特別支援教育が本格実施！

事業報告会を開催

参加者500人を超える！

平成18年11月17日に、キララホールにおいて、東京都の特別支援教育体制・副籍モデル事業の報告会を実施しました。当日は、都内の区市町村をはじめ、他府県からの参加もあり、多くの方々に本市の取組を報告することができました。

報告会の内容は次の通りです。

- ① 学校等からの実践報告
- 就学支援シートの活用事例
- 校内委員会の活性化事例
- 副籍の交流事例
- ② パネルディスカッション

「特別支援教育の成果と課題」

パネルディスカッションでは、コーディネーターに明治学院大学の緒方教授、パネラーに、西多摩療育支援センターの鈴木医師、私立多摩川幼稚園濱川園長、都立あきる野学園養護学校の杉本副校長、あきる野市立一の谷小学校の岡部校長にお願いし、3年間、あきる野市特別支援教育検討委員として関わってこられた立場からそれぞれ意見を交わし、本市の取組の成果と課題について整理をしていただきました。

また、この報告会では、100を超えるご質問・ご意見をいただき、特別支援教育に対する関心の高さがうかがえました。

「特別支援教育元年」に向けて

平成19年4月1日から、全国で特別支援教育がスタートします。3年間先駆けて取り組んできた本市の成果を広く活用していただくことが、モデル地区の役割の一つだと考えています。

また、本市としては、これまでの成果を踏まえ、明らかになった課題の解決に努めながら特別支援教育の一層の充実を図っていきます。

モデル事業報告書

（3年次）を作成しました

特別支援教育を推進する上での基本的な考え方をはじめ、就学支援や校内委員会、巡回相談、副籍などの取組について整理した報告書を作成しました。報告会でいただいたご意見やご質問への回答も含めて、多くの方にご覧いただけるよう、インターネットでの公開を始めました。

http://www.akirunod.jp/to_kubetusien

地域で育つあきる野の中学生

職場体験学習を通して、地域の一員としての自覚を

中学生の職場体験学習

あきる野市内の全ての中学校で、職場体験学習を実施しています。

働かない若者や働くことに意義や目的を見出せない若者が増えていることが、大きな社会問題となつていますが、職場体験学習は、望ましい社会性や勤労観、職業観を中学生に身に付けさせることを目指して実施されています。

職場体験学習の効果

中学生は職場体験学習を通して、地元の商店街や事業所で、地域の産業や最先端の科学技術、活発な経済活動に触れ、地域の一員としての自覚を高め、働くことの素晴らしさを学んでいます。

また、学校、家庭、地域、産業界等が連携して地域社会で子どもを育てるといふ、社会の教育力を確かめ合うきっかけにもなっています。

職場体験学習先

平成18年度には、市内や近隣の事業所のご協力で、900人を超える生徒が、述べ220カ所の事業所等で職場体験を実施させていただきました。

製造・福祉・医療・販売・飲食・建設・運輸・農林・情報・サービス・公共機関等体験先は多岐に



わたっています。

職場体験の受け入れのお願い
平成19年度も全中学校で職場体験学習を実施します。体験の日数の増加や生徒の希望に柔軟に対応するために職場体験を受け入れていただける事業所等を探しております。

今まで受け入れにご協力をいただいていた事業所に加えて、新たに職場体験学習の意義をご理解いただき、中学生を受け入れていただける事業所等がございましたら、教育委員会指導・学務課指導係又は各中学校副校長までご連絡いただければと思います。

☎558 8859

平成19年度職場体験の予定

	学年	日数	時期
秋多中	2年	3日	7月
東中	2年	3日	11月
西中	2年	3日	7月
御堂中	2年	3日	7月
増戸中	全校	3日	10月
五日市中	2年	3日	7月

てくてくあきる野
むかし発見！

第五話「あきる野歴史散策
〜秋川駅から雨間へ〜」

まもなく新緑が美しく、ハイキングに良い季節になります。そこで、あきる野の美しい景色を楽しみながら、先人の残してくれた歴史に触れることができます。コースをご紹介します。

まず、秋川駅の南口ロータリーから滝山街道（国道四一一号線）へ向かって進むと、右段下には秋川駅前南口運動広場があります。この広場は、昭和十一年に造られ、昭和十六年頃まで草競馬が行われていました。競走するのは、近郷の村々で農耕や荷馬車用として飼われていた馬が主で、農家の人たちが競い合って楽しんだそうです。

滝山街道に出たら右に曲がり、秋川に向かって坂を六百mほど下ると、油平駐在所前の交差点があり、その角に福徳寺があります。このお寺はかつて福泉寺といい、明治四十三（一九一〇）年に牛沼にあった徳重院と合併して両寺の頭文字をとって、福徳寺となりました。
この交差点の次の牛沼の信号の1つ先の角を左に曲がり、三

百mほど進むと、国指定史跡西秋留石器時代住居跡があります。昭和七年に東京府によって発掘調査が行われ、当時としてはまだめずらしい縄文時代中期（約四千年前）の敷石住居跡が五軒もまとまって発見され、注目されました。

このあたりからは、秋川南岸の加住丘陵と雨間の南郷地域を一望することができます。対岸



西秋留石器時代住居跡から対岸の南郷地域を望む

の景色を楽しみながら、段丘上の道を東に五百mほど進むと鳥居場という地域にたどりつきます。ここには、雨間の人々が崇敬する秋川南岸にある雨武主神社（雨間の氏神様）の遷拝所があります。遠く川を隔てた雨武主神社を拜むことができるよう

に天保三（一八三二）年に建てられました。



雨武主神社の遷拝所

段丘上から対岸の景色を見ながらさらに東に進み、坂道を下ると、目の前には西光寺があります。境内の観音堂は、文明五（一四七三）年の創建で、文久二（一八六二）年の再建と伝えられています。

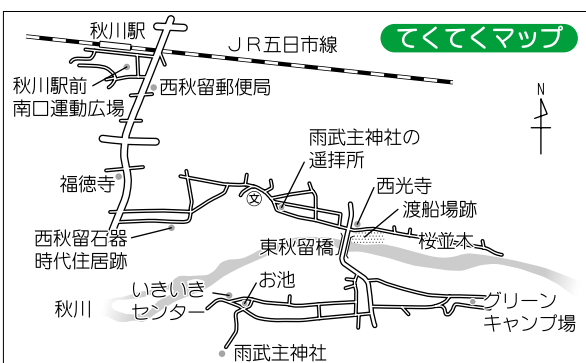
このお寺の前には昭和十三年に架けられた東秋留橋があります。その昔、秋川を渡る方法は、最初は土橋で、板橋、渡船となりました。その渡船場は、西光寺の南側にありました。

なお、西光寺前の土手には桜並木が続いており、美しい景色を楽しむことができます。また、秋川南岸の切欠という地域には市営のグリーンキャンプ場があり、その南側斜面では、三

月の中旬から下旬頃に、可憐なかたくりの群生を見ることができず。

東秋留橋を渡り、すぐ右に入る道を曲がってから二百mほど先をさらに右に曲がってしばらく進むと、雨武主神社の鳥居があります。参道の長い階段を登ると、社殿があり、本殿の四つの壁面には、飛騨の匠の系譜をひくという後藤三次郎らによる見事な彫刻があります。また、参道の下には、弁天様の祠とお池があります。かつては、このそばに、お池の湧き水を利用して、湯治のための湯場があり、人々で賑わっていたと言われています。

ぜひ、あきる野を訪れた春と歴史をお楽しみください。



あきる野市教育委員会
研究推進校研究発表会

平成19年1月24日、南秋留小学校を会場に、平成17・18年度研究推進校の南秋留小学校と秋多中学校が、実践研究の成果発表をいたしました。研究テーマに「確かな学力を育てる授業の創造・小中連携を通して」を掲げ、小中連携の視点を明確にして、算数・数学の教科指導を切り口に2年間の研究を進めてきました。当日は、南秋留小学校の全20学級が算数の公開授業を行いました。特に、6年生の授業では、秋多中学校の数学の先生による方程式の授業も行なわれました。公開授業、研究発表会、講演会には、市内外の教員など約300人が参加し熱心に聞き入っていました。

また、文部科学省教科調査官の富山哲也先生による、小中連携の在り方についてのご講演をいただき、南秋留小学校と秋多中学校の取組を価値付けるとともに、両校に続く増戸小学校と増戸中学校（平成18・19年度研究推進校）の、小中連携教育をテーマにした研究へのご示唆をいただきました。